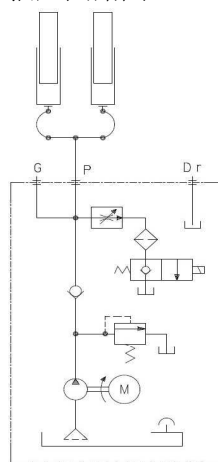


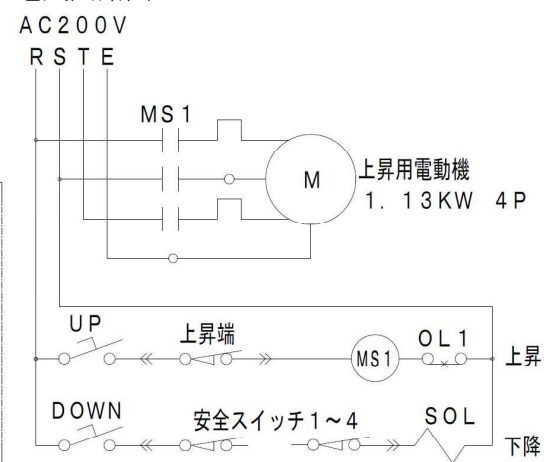
仕様

型式	許容荷重	テーブル寸法 W×L (mm)	テーブル高(mm) MIN～MAX	上昇時間(秒) 50H/60HZ	モーター出力 (kw)	自重 (kg)
FLC100-814	1000kg	800×1450	86～850	36/30	1.13	240
FLC100-816	1000kg	800×1600	86～850	36/30	1.13	245

油圧回路図



電気回路図



品質保証書

お買い上げ日より**1年以内**もしくは可動回数**4万回以内**に正常な状態で使用して故障し、弊社がその欠陥を認めた場合には無償修理致します。

お買い上げ年月日		年	月	日
型番	F L C —			
お客様	ご住所			
販売店	お名前			
	住所	様		
	店名	(印)		
	T E L			

<無料修理規定>

1. 取扱説明書に従った正常な使用状態で故障した場合には、お買い上げ販売店が無料修理致します。
 2. 保証期間内に故障して無料修理をお受けになる場合には、お買い上げの販売店にご依頼ください。
なお、離島及び遠隔地への出張修理を行った場合には、出張に要する実費を申し受けます。
 3. ご贈答品等で、お買い上げ販売店に修理依頼ができない場合には、本書に記載されている本社もしくは各営業所、サービスセンターにお問い合わせください。
 4. 保証期間内でも次の場合には有料修理になります。
(イ) 使用上の誤り、及び不当な修理や改造による故障、及び損傷。
(ロ) 組立・取り付け不備による故障、及び損傷。
(ハ) お買い上げ後の場所移動、落下等による故障、及び損傷。
(ニ) 火災・地震・水害・落雷その他天災地変・公害による故障及び損傷。
(ホ) 本書の提示がない場合。
 5. 日本国以外で使用された場合、すべてに責任を負えません。
- ※この保証書は、本書に明示した期間、条件のもとにおいて無料修理をお約束するものです。従ってこの保証書によってお客様の法律上の権利を制限するものではありませんので保証期間経過後の修理についてはご不明な場合は、お買い上げ販売店または本書に記載の本社もしくは各営業所、サービスセンターにお問い合わせください。

総発売元 **トラスコ中山株式会社** お客様相談室 ☎ **0120-509-849**

〒105-0004 東京都港区新橋4丁目28番1号 E-mail: techno.center@trusco.co.jp

<http://www.orange-book.com/>



No. 300416

取扱説明書

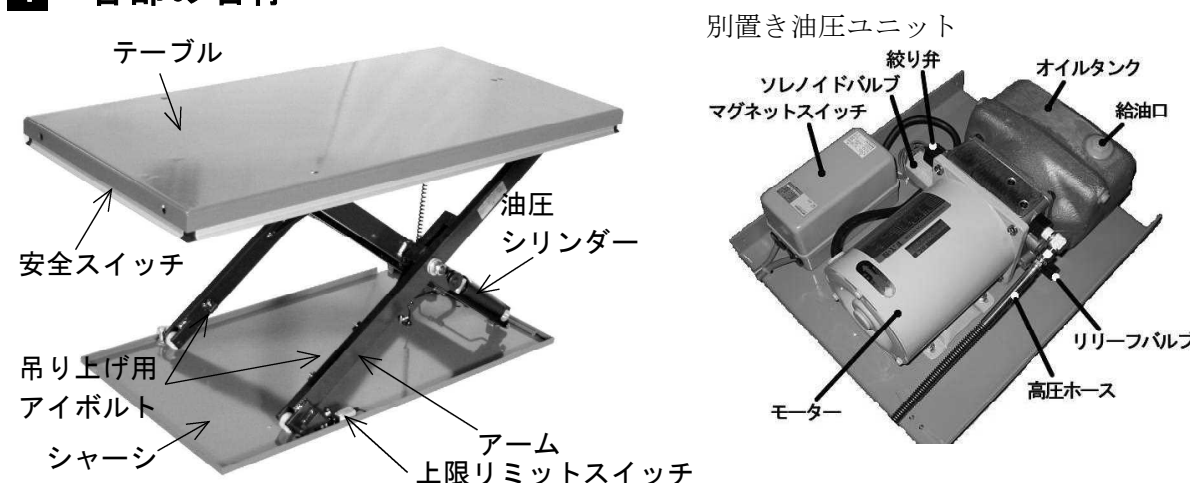
Pitless Low Lift

ピットレスローリフト・FLCタイプ
FLC100-814, 816

この度は、ピットレスローリフトをお買い上げ頂きましてありがとうございました。
本機を安全に、能率よくご使用頂くために、必ずこの取扱説明書を最後までお読みください。

- 注意**
- 取扱説明書は大切に保管し、よく活用してください。
 - 取扱説明書は最終ユーザーに必ずお渡しください。
 - 取扱説明書や警告ラベルを破損・紛失した場合には、ただちに購入店に注文してください。
 - 取扱説明書で使用方法に不明な点や疑問点がある場合は、購入店にお問い合わせください。

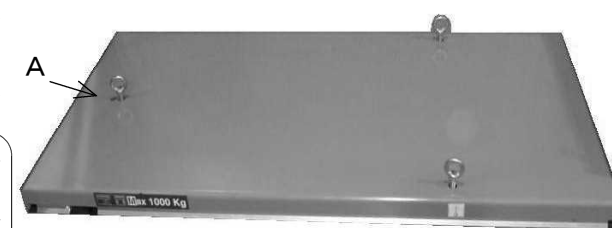
1 各部の名称



2 据付

- 右の写真のようにアイボルトを差すことでリフターを持ち上げるフックにすることができます。アイボルトはアームの内側に収納されております。

- 注意**
- 必ず3本で水平になるように吊り上げてください。
 - 写真のAにも穴がありますが、これはテーブルだけを持ち上げる為のものです。

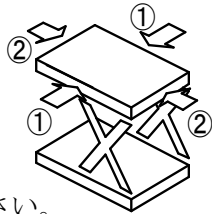


- 頑丈で水平な面にシャーシ全体が接地するように接地してください。シャーシは、接地することで強度が保たれる設計になっております。
- 屋内に据え付けてください。(塵埃の少ない、水、蒸気のかからない場所)
- 周囲温度 0～40℃ ●周囲湿度 85%以下 ●高度 1000m以下

- 危険**
- 運搬、設置、配管、配線、保守、点検、は専門知識と技能を持った人が実施してください。感電、けが、火災、装置破損のおそれがあります。
 - 爆発性雰囲気中では使用しないでください。

3 安全上の注意事項

- リフターを運搬される場合は、テーブルを下限まで降ろし、シャーシ底部にロープを掛けて吊り上げるか、フォークリフトでシャーシ底部をすくい、**水平に運搬**してください。倒さないでください。
- アンカーを打つなどして、**しっかりと固定**してください。
- 許容荷重**以上は載せないでください。
- 屋内専用**です。屋外には設置しないでください。
- 傾斜地**では使わないでください。転倒事故のおそれがあります。
- 子供**にさわらせないでください。
- 積載物の移載時の許容荷重は右図の①は**1／4**②は**1／2**で設定してください。
- 改造**してのご使用はおやめ下さい。やむをえず、改造される場合はご相談下さい。
- 積み荷はテーブル面からは**み出ない**ように、又**片荷**や**集中荷重**にならない様均等に荷積みしてください。(テーブル面のほぼ中央の2/3以上を覆うこと)
- テーブルの四隅の高さの差はテーブル長さの1%以内です。水平ではありません。
- リフターの可動、昇降部分は危険です。絶対に**手足を入れない**でください。メンテナンス時には、挟まれないよう二重三重の安全対策を設けてください。
- ピットにリフトを入れる場合には、湧き水や雨水が流れ込み**感電**のおそれがあります。排水設備・点検用のスペースを確保してください。
- 長期間使用しない時や、メンテナンス時には必ず**電源を切**ってください。
- 溶接作業を行う場合には基板等の**電気部品を全て外**してください。
- 本機は防水仕様ではありません。**水気**のある雰囲気で使用しないでください。
- 異常を感じたら直ちに買い求めの販売店にご連絡ください。



4 保守・点検時の下降防止安全対策

- 保守・点検などリフト内に入るときは、**テーブル上の荷物や治具を降ろし**、テーブルのつり上げと**下降防止ストッパーを設置**して、テーブルやアームが下降して手足を挟まないように安全対策を施してください。ストッパー設置後は電源も切ってください。ストッパー等を設置しないとテーブルが下降して**死亡災害**のおそれがあります。



- テーブルの吊り上げ方
 - ・左の写真の位置にアイボルトを差してください。Bの位置の穴はシャーシ吊上げ用です。
 - ・アイボルトをクレーン等で持ち上げるとテーブルが持ち上がります。最低位付近ではシャーシも一緒に持ち上がりますので、足で踏むなどしてください。(写真C) 最高位付近まで行くと離してもシャーシは持ち上がりません。
- ストッパーの設置
 - リフターを上昇させ、Dのナット2カ所ににボルトを差し、リフターを下降させると、Eの棒がボルトに当たりストッパーになります。

⚠危険 テーブルの吊り上げとストッパーの設置は両方行ってください。どちらか一方のみでの保守点検は危険ですので行わないでください。

5 操作方法

- 1, 電源コードを電源(三相、AC200 V、定格電流 7.3/5.6A[50/60Hz])に接続してください。
- 2, フットスイッチの”UP”を踏むと上昇し、放すと停止します。上限に達したらリミットスイッチの働きで自動的に停止します。
- 3, フットスイッチの”DOWN”を踏むと下降し、放すと停止します。テーブル裏の安全スイッチが作動すると停止しますが、下限のリミットスイッチではありません。



注 意

- ・モーターが回っても上昇しない時は、モーターが逆転している場合があります。電源コードのアース線以外の2本の線を入れ替えてください。
- ・リフトが上限・下限に達したら速やかにスイッチを放してください。
- ・三相 200V のモーターは15分定格です。昇降を繰り返す場合は、モーターが異常発しないよう注意してください。リフターの最大使用頻度は15回/時です。

4, 下降速度調整

下降速度は規定荷重にて工場出荷時に調整しています。原則としてさわらないでください。やもうえず調整する場合には、まず絞り弁のナットをゆるめ、絞り弁を右(時計回り)に回すと下降速度は速くなり、左に回すと遅くなります。1/8回転づつ回して規定荷重を載せ調整してください。無負荷で調整すると積載時には下降速度が速くなり危険です。調整後ナットで絞り弁を固定してください。

5, 圧力調整(リリースバルブ)

圧力調整は規定荷重にて工場出荷時に調整してあります。絶対さわらないでください。

6 保守点検

点検は必ず無負荷の状態にし、内部を点検するときは前記の下降防止安全対策を施してから行ってください。日常点検により万一異常が発見された場合、直ちに運転を停止し原因を調査の上、対策処理を行ってください。

日常点検

- 本体外観上に異常はないか。
- リフトの昇降動作に異常はないか。
- 周囲に障害物はないか。
- 異常音や異常発熱はないか。

定期点検(一ヶ月毎)

- 各接続部のボルト、ナット等の破損やゆるみはないか。
- 油圧作動油は不足していないか。油漏れはないか。
- 高圧ホース、電気配線等に亀裂や摩耗はないか。
- 溶接部の亀裂や破損はないか。
- 各接続部のボルト、ナット等の破損やゆるみはないか。

油圧作動油の交換

油圧作動油の交換時期は、使用状態によって異なりますが、500時間運転毎、又は1年経過毎に交換してください。オイル交換する時はゴミが入らないよう注意し、リフターはいっぱいまで下げてから行ってください。

オイル量

電動式—スピンドル(タービン)油
ISO.VG32—2000CC(TO-TA-N)

検査合格証

本機は下記の検査項目に合格しております。

- (1) 使用上有害で大きな、きず・ひずみ・ひび等のないこと。
- (2) 指定通りの塗装色であり、有害な塗装欠陥のないこと。
- (3) 溶接面に目視できる有害な溶接欠陥のないこと。
- (4) オイル量が足りていること。
- (5) エア噛みがないこと。
- (6) 昇降動作に異常が無いこと。
- (7) 最大積載荷重を負荷して最高位から最低位まで昇降させた後、荷重を取り除き各部の異常がないこと。
- (8) 最大積載質量をテーブル面に負荷し、最高高さまで上昇させて15分間放置した時の降下量が揚程の2%以内であること。
- (9) 上限高さでリミットスイッチが正常に動作していること。
- (10) 安全スイッチが正常に動作すること。
- (11) 無負荷で、下降させた時に途中で止まらず、下限まで下がること。
- (12) アームローラーが正しく回転していること。
- (13) 油漏れがないこと。
- (14) 製造番号等ラベルが所定の位置に貼り付けられていること。